

3 授業をコミュニケーションの場にするために

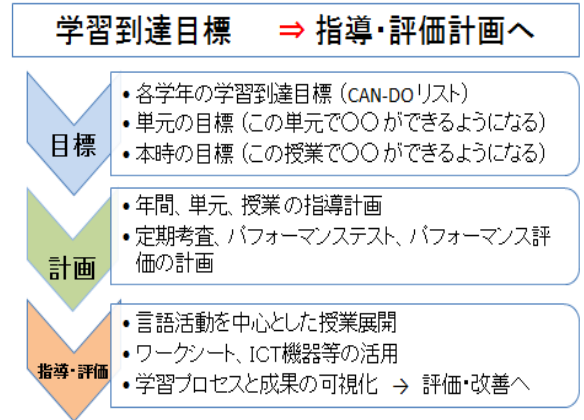
毎日の授業がうまくいかずに悩んでいることはありませんか。ここでは指導の過程を、授業の事前準備、授業中、授業後の3段階に分けて、授業を成功させるための留意点を述べます。

1 授業の事前準備

(1) 単元構想と学習指導案の作成

【単元構想・学習指導案作成上の留意点】

- ア 単元全体を通して生徒に身に付けさせたい力は何か
- イ 単元の目標を見据え、本時の目標を具体的にどう設定するか
- ウ 目標達成のために生徒にどのような学習や言語活動をさせたらよいか
- エ 段階的な指導をどのように行うか
- オ 目標の達成状況を評価するための方法及び具体的な評価基準をどう設定するか
- カ 使用すべき教材・教具は何か
- キ 家庭学習で取り組ませることは何か



授業の指導計画を立てる際に、右上の図のように、学習到達目標からのつながりを確認します。ワークシートや言語活動の内容、指導・評価方法について、他の教師と共通理解を図った上で、授業に臨むように心がけましょう。

(2) 教材研究

学習指導案の作成が授業の「骨格づくり」だとすれば、教材研究は授業の「肉付け」に当たります。教師にとって教材研究とは、教える立場での予習であり、授業の目標を達成するためのものでなければなりません。

【教材研究を行う際の留意点】

- ア 題材を十分に掘り下げる
教科書で扱われているテーマの背景知識を調べ、内容について理解を深めることで、生徒の興味や関心を引き出すことができ、学習への動機付けにつながります。他教科の教師に助言を求めることも有効です。ただ教科書の内容理解を促すだけでなく、題材について日常生活と関連させ、自分の意見を述べさせるなど、「教科書で」教えるための準備をしましょう。
- イ 言語材料についての知識を深める
語彙や文法・語法の確認を十分に行い、生徒の疑問に答えられるように準備しましょう。英英辞典や活用辞典も活用し、よい用例や例文を授業で示せるように準備しましょう。
- ウ 授業の目標に応じて、言語活動を工夫する
生徒が主体的に英語を使えるような言語活動を取り入れられるように準備しましょう。「聞く・話す・読む・書く」といった技能をバランスよく使い、理解や思考を深めさせるような工夫もしましょう。
- エ ワークシートを有効活用する
学習到達目標に向けての指導の道筋を明確にし、生徒に何をどのように学ぶのかを示すために、ワーク

シートを作成しましょう。ワークシートに言語活動のねらいやルーブリックを掲載することも効果的です。

オ 授業のねらいに合った板書計画を立てる

生徒の学習を支援するために板書を工夫することも重要です。授業の目標や1時間の流れを示したり、特に重要な事項を色分けし、使う色にも配慮したりするなど、実際に板書する形式で板書計画を立てましょう。パワーポイントやピクチャーカードなどのビジュアル教材も有効です。

カ 教材を何度も音読する

教師が話したり読んだりする英語は、生徒にとってのモデルとなります。事前に教材の音声を聞いて、発音やリズム、イントネーションを確認しておきましょう。

2 授業中

(1) 授業の目標を示し、生徒に英語を使わせよう

授業で身に付けさせる力を明確にし、生徒が英語を使う場面を増やしましょう。間違いを恐れず発言できる雰囲気をつくり、積極的にできる限り多くの英語を使わせましょう。

(2) 教師と生徒が「楽しさ」を実感できる授業を心がけよう

まず、教師の話す英語を工夫しましょう。生徒の理解を促すために、強弱やスピードに配慮し、分かりやすく簡潔に話しましょう。授業中に教師が使う英語には決まった表現があるため、年度当初に表現集として生徒に渡しておくとも効果的です。さらに、全ての生徒が授業に参加し活躍できる場面をできる限り多くつくりましょう。教師と生徒、あるいは生徒同士の英語によるやり取りや関わり合いで、授業が活性化されます。生徒が英語の授業の楽しさを実感できれば、その先の英語による活動や英語の学習に意欲的に取り組む動機付けになります。

(3) 生徒の実態を把握し、個に応じた指導やフィードバックを心がけよう

教師は授業中に、クラス全体の傾向を把握すると同時に、生徒一人一人の特性などにも注意を払い、個に応じた指導に努めることが必要です。全ての生徒が目標に到達できるように、また、より高度な学習内容を求める生徒にも応えられるように、生徒の学習状況や実態に応じた指導を行いましょ。例えば、ペア・ワークなどの言語活動は、最初は全員の生徒にとって取り組みやすいものから始め、段階的に高度な活動を取り入れると効果的です。また、生徒の取組状況をよく観察し、よい点や改善点を示す等の適切なフィードバックを心がけましょ。

(4) ALT をうまく活用しよう

授業を実際のコミュニケーションの場とするためには、ALT は貴重な存在です。生徒がALT と話す機会を充実させましょ。また、ALT には、あらかじめ計画的に依頼することにより、授業の実践だけでなく、難しい英文を生徒の習熟度に応じて書き換えてもらったり、パフォーマンステストの評価をしてもらったりすることもできます。

(5) 教育機器を有効に活用しよう

最近の教育機器、特に ICT 機器の進歩にはめざましいものがあります。ICT 機器はビジュアル教材、音声教材等をあらゆる場面で活用でき、生徒の理解の促進や、言語活動の活性化、さらに学習へのモチベーションの向上に役立てることができます。例えば、教材に関連した動画の視聴によって、内容理解を深めさせるとともに、リスニング力を向上させることができます。また、活動中や成果発表における生徒の様子を記録し、振り返りや評価に活用することも効果的です。ただし、動画や情報を利用する際には、個人情報扱いや著作権にも十分に注意を払う必要があります。

授業の目標を達成するために、ICT 機器を生徒に活用させることが効果的な場面も多くあります。学校にある

機器の特徴をよく把握して、生徒のコミュニケーション能力の育成のために、最大限活用しましょう。

【関連資料：ICT機器の活用】

- 愛知エースネット（愛知県総合教育センター） <http://www.aichi-c.ed.jp/> ICTの授業活用
- えいごネット（英語教育協議会・E L E C） <http://www.eigo-net.jp/info/case/ict/> 事例・指導案 ICT
- 公益社団法人 著作権情報センター <http://www.cric.or.jp/> 著作権 Q & A

3 授業後

(1) 学習意欲を高めさせるような評価をしよう

生徒の学習意欲を引き出せるように、取組や成果を肯定的に評価しましょう。授業で使用したワークシートを活用し、生徒に学習成果をフィードバックしたり、CAN-DO リストやルーブリックにより、生徒に現在の到達度と今後の目標を確認させたりすることは、生徒の学習意欲の向上にもつながります。また、自己評価や相互評価を通して、学習状況を客観的に捉える力や自律性を養うことも大切です。

(2) 効果的な家庭学習を促そう

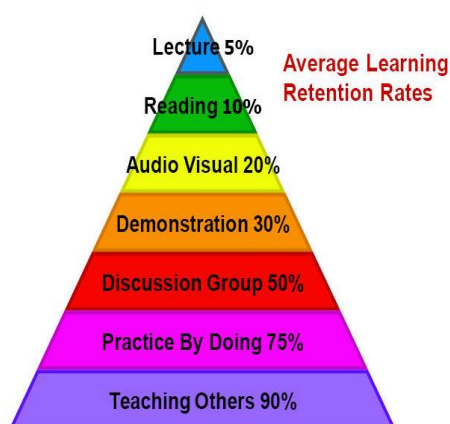
生徒に「次の目標を達成するために家庭で何を学習すべきか」「できていない部分を克服するために、学習方法をどのように改善すればよいか」を伝えましょう。また授業以外にも、英語で日記を書くこと、洋書を読むこと、英会話番組の視聴等、生徒が自主的に英語力を高められる方法を紹介しましょう。継続的な学習を促すために、例えば「英語学習カレンダー」をつくり、目標、計画、学習状況、振り返り等を記入させてもよいでしょう。

(3) 授業を多面的に評価しよう

自分自身の指導をさまざまな面から振り返りましょう。授業の成否や生徒の反応に一喜一憂するのではなく、実践を通して分かったことや気付いたことを今後の学習指導の改善に生かすことが何よりも大切です。授業中うまくいかなかったことについては、同僚の教師と相談し改善しましょう。さらに、チームとして同じ目標に向かうために、生徒にどのような学習をさせたらよいのかを話し合しましょう。

また、英語だけでなくさまざまな教科の授業を積極的に参観させてもらい、授業力の向上を図りましょう。その際に、指示の出し方や話し方、授業の構成方法、要点のまとめ方、質問に答えられない生徒への対処の仕方など、どんなことでも吸収するつもりで参観に臨みましょう。

【関連資料：Learning Pyramid 学習定着率（アメリカ国立訓練研究所）】



Source: National Training Laboratories, Bethel, Maine

左図は、学習形態による「学習定着率」を表しています。

「他の生徒に教える（90%）」、「実際に体験する（75%）」、「討論をする（50%）」等の、学習者中心の学習形態が高い定着率を示しているのに対して、「講義」を聞いて学習した内容の定着率は非常に低い結果（5%）となっています。

これは、教師中心の講義型の学習形態よりも、学習者中心の参加型の学びの形態の方が、効果が高いことを裏付けるものです。言語活動を中心とした授業や、「主体的・対話的で深い学び」を目指した実践を推進する上で、重要な視点を示しています。